



ほうおんこう 「報恩講」

如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も 骨をくだきても謝すべし

正像末和讃

報恩講の源流は、宗祖親鸞聖人ご自身が、「師主知識」である法然上人の御命日に人々と寄り合い、仏法をお聴聞し、お勤めしておられたことにあるといえます。そのご恩報謝の意志は、親鸞聖人滅後、門弟たちに受け継がれ、歴代上人によって法要の次第が調えられ、蓮如上人の時代には、各地の寺院・道場で広く報恩講が勤められるまでに貫かれてきました。以来、報恩講は私たち真宗門徒にとっては一年で最も大切に中心となる仏事として勤められています。「ご恩」という言葉が聞かれなくなってきた生活の中で、私たちは一体何を失い続けているのか？一体何を取りかえさねばならないのか？このたびの報恩講をお勤めする中で、「如来大悲」の教えに私自身を尋ねてまいりましょう。

日にち 7月24日(日)～26日(火)

時間

	じん じょう 晨 朝	にっ ちゅう 日 中	たい や 遠 夜	しょ や 初 夜
24日(日)	—	—	14時～	19時～
25日(月)	7時～	10時～	14時～	※16時半～
26日(火)	7時～	10時～	—	—

※遠夜のご法話終了後、御伝鈔の拝読がございます。

◎25日はお齋(昼食)をご用意いたします。

講師 伊藤 俊作 師 (小松教区第2組 静光寺住職)
(24日遠夜から25日日中まで)

摩垣 浄心 師 (福井教区第6組 佛言寺住職)
(25日遠夜から26日日中まで)